ドイツ語版「天正遣欧少年使節ローマ法王謁見記」

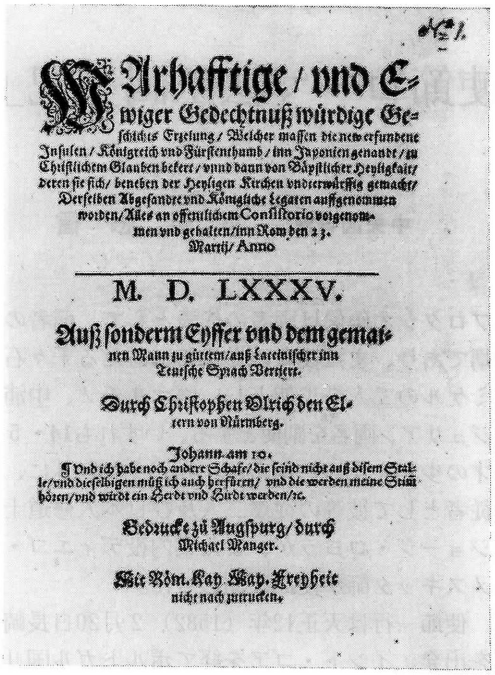
中央図書館　河　合　忠　信

イエズス会創設者の一人、フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸したのは1549年であった。即ちこの年をもって我国におけるカトリック教義の布教と伝道が耶蘇会士によって始められ、以後1614年のキリシタン禁教令発布、1637年島原の乱勃発までの我国におけるキリシタン伝道の歴史は、一面華々しくもあれば、また他面苦渋に満ちたものでもあった。1563年肥前大村の領主大村純忠は大名として最初のカトリック信者となり、洗礼を受けてドン・バルトロメウと称し、次いで1578年、豊後の領主大友義鎮がドン・フランシスコに、更に有馬の侯有馬晴信が1579年、ドン・プロタシオとなった。当時我国のカトリック教は十数万の日本人信者を擁し隆盛の絶頂にあったといえる。

かかる教勢絶頂期にザビエルに次いで来日したのが、イエズス会東洋巡察使アレクサンドロ・ワリニャーノ師であった。彼は上述の所謂キリシタン大名三侯に日本よりローマ法王への使節派遣を提案した。使節派遣について、彼ワリニャーノ師の意図は、一つにはローマ法王及びスペイン王フィリップ二世にイエズス会の日本伝道に強力な保護を求めることであり、もう一つには使節を進んだヨーロッパ文化並びにカトリック教の偉大さの目撃証人とし、帰国後その見聞を大衆に語らしめ、以後のイエズス会の日本布教・伝道の間接的にせよ促進を目論んだものであったといわれている。

この使節派遣計画に双手を挙げて賛同した三侯は、豊後領主大友ドン・フランシスコは自分の代表として、甥、伊東マンショを、また大村ドン・バルトロメウ並に有馬ドン・プロタシオ両侯は両者の代表として、前者の甥であり、また後者の従兄弟にあたる千々石ミゲルの二人を正使とし、原マルチノ、中浦ジュリアン両名を副使とする、いずれも14・5才の少年を使節に選んだ。尚、それ以外に、従者として彼等の従僕二人及び日本人修道士ジョージ・ロヨラが、また案内役ディエゴ・メスキッタ師が使節に加わった。

使節一行は天正12年（1582）2月20日長崎を出発、インド・ゴアを経てポルトガル国リズボンに到着、ポルトガル・イスパニア両国を通過、海路イタリアに上陸、1585年3月22日にローマに到着した。そしてその翌日3月23日が時のローマ法王グレゴリオ十三世の公式謁見の日と定められた。使節一行の法王謁見について、幸田成友博士の文を借りてその模様を記せば「群衆の歓呼と祝砲の殷々たる中に、使節の一行は騎兵隊・楽隊・貴族に前後左右を取囲まれつつ、予定の順路を経てバチカン宮殿に参入し、粛々として帝王の間に進んだ。三年有余の長日月を費やし、山海萬里の艱難を凌ぎ、出発以来束の間も忘れ兼ねた大切な使命を、今日こそ果し得べけれと、勇み立った四少年の頬には、若き血が紅を染めたであろう。彼等は交々額広く顎髭白き八十三歳の老教皇グレゴリオ十三世の前に進み、跪いてその足に接吻し、教皇はその都度これを抱擁して額に接吻を賜ふた。ついで使節はミスキッタを通じて簡単な口上を述べ、三侯の書簡を捧呈し、その訳文は順次書記官によって朗読せられ、神父ゴンザレスの演説・ボッカパヅリの答辞の後、再び接吻の禮を施して式を終えた。かくの如きは実に千古未曾有の謁見式である。老教皇は万感交々臻


Warhafftige / vnd Ewiger Gedechtnuß würdige Geschichts Erzelung / Welcher massen die new erfundene Insulen / Königreich vnd Fürstenthumb / inn Japonien genandt / zu Christlichem Glauben bekert / vnnd dann von Bäpstlicher Heyligkaitt / deren sie sich / beneben der Heyligen Kirchen vnderwürffig gemacht / Derselben Abgesandte vnd Königliche Legaten auffgenommen worden / Alles an offentlichem Consistorio vorgenommen vnd gehalten / inn Rom den 23. Martij / Anno

M. D. LXXXV.

Auß sonderm Eyffer vnd dem gemainen Mann zu gütem / auß Lateinischer inn Teutsche Sprach Vertiert.

Durch Christophen Vlrich den Eltern von Nürmberg.

Johann. am 10.

¶ Vnd ich habe noch andere Schafe / die seind nicht auß disem Stalle / vnd dieselbigen muß ich auch herfüren / vnd die werden meine Stimm hören / vnd wirdt ein Herdt vnd Hirdt werden / ꝛc.

Gedruckt zu Augspurg / durch Michael Manger.

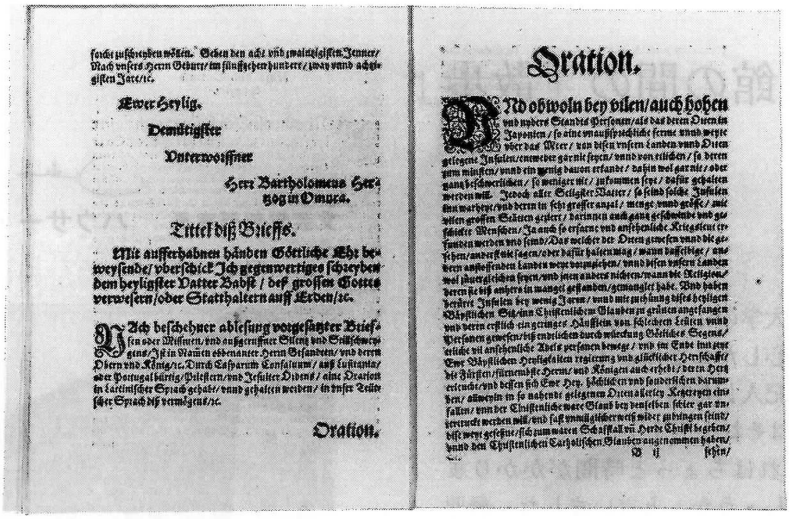
Mit Röm. Kay. May. Freyheit nicht nach zutrucken.

り、声を挙げて泣いた。否独り教皇のみならず、席にある者皆泣かざるはなしとあるが、これは決して文飾ではないと信ずる。教皇は席を去るに臨み、『主よ、今汝の僕をして平和に去らしめたまへ』と呟かれた。異域の信者の書簡を領し、またその使節を見て満足のあまり、本日死すとも可なりとの意を表はされたのであろう。果して教皇は当日より十六日後に長逝せられた。」(「天正遣欧使節につき」丸善編　天正使節渡欧三百五十年記念珍籍展覧会目録　昭和7年11月)。

この未曾有の謁見はヨーロッパ諸国に大きな反響を呼び、大友・大村・有馬三侯の書簡をはじめ、ガスパル・ゴンザレス神父の紹介演説、アントニオ・ボッカパヅリ神父の答辞、更に使節の旅行や日本国にかんする若干の記事を掲げた小冊子“Acta Consistorii Pvblice Exhibiti A S. D. N. Gregorio Papa XIII. Regvm Iaponiorvm Legatis Romae, Die XXIII. Martii. M. D. LXXXV...”が1585年中に十六版がローマをはじめヨーロッパ各地で刊行された。ところで今回紹介する書はこの「謁見記」のドイツ語版で、当時はかなりの部数が刊行されたであろうが、今日残存するもの僅か数点の稀覯書である。本書のタイトルだが、“Warhafftige / vnd Ewiger Gedechtnuss würdige Geschichts Erzelung / Welcher massen die new erfundene Insulen Königreich vnd Fürstenthumb / inn Japonien genandt / zu Christlichem Glauben bekert / vnd dann von Bäpstlicher Heyligkait / deren sie sich / beneben der heyligen Kirchen vndterwürffig gemacht / Derselben Abgesandte vnd Königliche Legaten auffgenommen worden / Alles an offentlichem Consistorio vorgenommen vnd gehalten / inn Röm den 23. Martij / Anno M. D. LXXXV.... auss Lateinischer inn Teutsche Sprach Vertiert. Durch Christophen Vlrich den Eltern von Nürmberg. [A verse fromthe Bible]. Gedruckt zu Augspurg / durch Michael Manger. Mit Röm. Kay. May. Freyheit nicht nach zutrucken.”

(新しく発見された島国にして王侯国は日本と称し、イエス・キリストの教えを信仰し、畏き洗礼によって聖なるエケレジャに従い、使節を差し向け、1585年3月23日法王庁において公式の謁見を賜った。誠に真実にして永遠に記念し語り伝うべき歴史…クリストフ・ウルリッヒ訳。アウグスブルグ、ミカエル・マンガー刊。)縦19.5㎝、横15㎝、全15葉より成る小冊子。内容はラテン語原本と同じく、大友・大村・有馬三侯のローマ法王への書簡を最初に、次いでガスパル・ゴンザレス神父の紹介演説、更にアントニオ・ポッカパヅリ神父の答辞が掲げられており、少年使節派遣の次第については原本より詳細に記述されている。刊行年を欠くが、おそらく原本と同じ1585年か、或いはその翌年の1586年と推定される。

Boscaro, Adriana: “Sixteenth century European printed works on the first



Ewer Heylig.

Demütigster

Unterwoffener

Herr Bartholomeus Herzog in Omura.

Tittel diß Briefs.

Mit auffherabnen händen Göttliche Ehr bewey ſende/ vberſchick Ich gegenwertiges ſchreyben dem heyligſter Vatter Babſt / deß groſſen Gottes verweſern/oder Statthaltern auff Erden/ꝛc.

Oration.

Japanese Mission to Europe. A descriptive Bibliography.” Leiden, E. J. Brill, 1973. によれば、現在本書は次の６図書館、ミュンヘン・バイエルン州立図書館、アウグスブルグ州立図書館、ベルリン国立図書館、フランクフルト州立大学図書館、パリ・ベッソンコレクション、天理中央図書館の収蔵が確認されている。なお我国において本書に言及した文献をあげれば、１．天正使節渡欧三百五十年記念「珍籍展覧会目録」丸善：昭和７年11月、２．弥吉光長「天正九州三侯遣欧使節の教王謁見記」：（「西班牙将来古書」内田誠著：昭和10年７月）のみで、その中（１）の丸善本はおそらく今日の天理本であろうが、（２）内田本については「内田嘉吉文庫稀覯書集覧」に収録されてなく、その所在は確認出来ない。したがって近畿大学本は現存本としては第７本に数えられる書であり、いづれにしてもと極めて稀覯な書と言いうる。なお天正遣欧使節に関して最も詳細な報告書はグワルチェリの「遣欧使節記」“Gualtieri, Guido: Relationi della Venvta degli Ambasciatori Giaponesi a Roma sino alla partita di Lisbona.... Roma, 1586” だが、本館には本書及びそのドイツ語版も収蔵されている。